

2023 年度 山梨学院大学 卒業生調査報告

学習・教育開発センター

文責：潘秋静・倉澤一孝

1. 調査目的

山梨学院大学は、本学の教育活動等について検証・評価し、今後の教育や学生支援活動の充実を図るために IR 調査を実施している。

本調査では、過去 5 年間に本学を卒業した学生を対象に、本学の教育、学生支援、学修成果、また、卒業後のキャリアについて、卒業生を対象に調査を実施した。この調査は、卒業生の現状を把握するとともに、本学の教育活動の有用性について卒業生から評価を求めることによって、エビデンスに基づき今後の施策を検討することを目的として実施した。

2. 調査期間

2023 年 9 月 15 日～2023 年 9 月 30 日

3. 調査方法

アンケートに回答を依頼するメールを卒業生に送付し、Web アンケートシステム「Microsoft forms」を利用して回答を収集した。

4. 調査対象

- ✓ 調査対象：就職キャリアセンターの卒業生連絡リストに登録されている 2977 名
- ✓ 有効回収率：3.5%（回答：126 名）

5. 調査項目

第 1 部 回答者情報

第 2 部 大学時代の学習・生活から見た本学の教育効果

第 3 部 卒業後の就職・仕事状況から見た本学の教育効果

第 4 部 学習経験の総合評価と本学に対する愛着度

6. 調査結果の要約

<第1部 回答者情報>

- 本学の卒業生リストに登録されている2977名に回答を依頼し、126名(4.2%)から回答があった。
- 回答のあった卒業生の卒業年度は、「2023年3月卒」(25%)が最も多く、次いで「2022年3月卒」(21%)、「2021年3月卒」(18%)、「2020年3月卒」(17%)、「2019年3月卒」(14%)の順である。
- 回答のあった卒業生の出身学部は、「法学部」42%が最も多く、次いで「経営学部」28%、「スポーツ学部」14%、「国際リベラルアーツ学部」12%、「健康栄養学部」4%の順である。
- 現在の住所を尋ねたところ、「山梨県」(38.1%)が最も多く、次いで「東京都」(15.9%)、「海外」(8.7%)、「長野県」(7.9%)、「神奈川県」(4.8%)、「埼玉県」(4.8%)の順である。

<第2部 大学時代の学習・生活から見た本学の教育効果>

- 大学時代に卒業生が取り組んだ活動を、「4.熱心」の割合でランク付けした結果、昨年度と同様にトップ3位は以下の通りとなった。

| 大学で熱心に取り組んだこと | 割合 | 順位 |
|--------------------------|-------|-----|
| a. 大卒の学歴を得るための必要な単位を取ること | 50.8% | 第1位 |
| g. 課外活動(部活、サークル、ボランティア) | 40.5% | 第2位 |
| h. アルバイト | 38.1% | 第3位 |

- 一方、同じ質問に対して、大学時代に体験しなかったと回答した割合が高かった項目は昨年度の調査結果とも一致し、以下の通りである。

| 大学で体験しなかったこと | 割合 | 順位 |
|-------------------|-------|-----|
| k. 大学院への進学準備・勉強 | 61.1% | 第1位 |
| e. 留学や異文化交流 | 47.6% | 第2位 |
| j. 企業研修やインターンシップ等 | 43.8% | 第3位 |

- 本学は社会で活躍できる広い国際的視野を持ち実践的な知識と技能を備え創造力と行動力を発揮する人材を育成することを目指しており、この観点から見ると、

より多くの学生に対して留学や異文化交流、インターンシップの機会を提供する必要があると考えられる。

- 山梨学院大学で身につけたコンピテンスを、「5.かなり身に付けた」と「4.ほぼ身に付けた」の割合を合わせてランク付けした結果、卒業生によって最も高く評価された上位3項目と下位3項目は以下の通りとなった。

| 上位3つのコンピテンス | 割合 | 上位 |
|---------------------------------|-------|-----|
| k. 人柄・倫理観・責任意識 | 72.2% | 第1位 |
| f. 環境に適応する力や自己管理する力 | 65.1% | 第2位 |
| g. 自己を理解し、適切な目標を設定し、達成するまでやり抜く力 | 62.7% | 第3位 |

- この結果から、本学の教育を通して、卒業生が特に倫理観、柔軟性、自己認識といった「ソフトスキル」を高く身につけたと評価されることが明らかになった。

| 下位3つのコンピテンス | 割合 | 下位 |
|--------------------|-------|-----|
| i. 資格の数 | 46.8% | 第1位 |
| m. コンピューターを扱う知識・技術 | 34.1% | 第2位 |
| d. 職業的知識・技術 | 28.5% | 第3位 |

- 一方、本学の卒業生は有している資格の数は少なく、コンピューターを扱う知識・技術及びの習得が比較的弱い傾向がある。一定の資格を持つことは、卒業生の専門性の証明、キャリア選択の多様性、自己成長及び信頼性の向上というメリットにつながると考えられる。よって、就職活動における競争力を高め、今後のキャリアアップを促進させるために、資格取得に基づく教育及び指導が必要であると指摘できる。
- 本学の教育・キャンパスライフ全般に関して、「とても満足している」(24.6%)、「大体満足している」(36.5%)、「ある程度満足している」(27.8%)と回答した卒業生の割合を合計すると、89%の卒業生が本学の教育・キャンパスライフに肯定的な評価をしていることがわかった。

<第3部 卒業後の就職・仕事状況から見た本学の教育効果>

- 主な勤務先の業種は、「情報通信業」(17.5%)、「公務」(15.9%)、「卸売・小売業」(9.5%)、「その他」(7.1%)、「製造業」(6.3%)である。
- 回答のあった卒業生は、「事務従事者」(18.0%)、「販売従事者」(13.3%)、「情報処理・通信技術者」(10.2%)、「サービス職業従事者」(10.2%)、「その他の専門的・技術的職業従事者」(9.4%)、といった職種に従事している。
- 現在働いている勤務先が何社目であるか尋ねたところ、「学部卒業後、転職なし、1社目」(69.0%)が最も多く、次いで、転職ある場合には、「2社目」(22.2%)、「3社目」(4.8%)、「4社目」(3.2%)の順である。最初に就いた仕事から転職または退職した理由は、「新たなステップアップを図るため」(29.2%)、「収入面での不満」(23.1%)、「職場の人間関係」(15.4%)、「自分の関心に合わなかった」(13.8%)が上位になっている。
- 現在の仕事で役に立っている学習経験を「5.かなり役立っている」と「4.ほぼ役に立っている」の割合を合わせてランク付けした結果、上位5位は以下の通りである。

| 現在の仕事に有用となる学修経験 | 割合 | 順位 |
|-------------------------|-------|-----|
| l. 友達や人的ネットワークの作成 | 59.6% | 第1位 |
| k. アルバイト | 52.4% | 第2位 |
| j. 課外活動(部活・サークル・ボランティア) | 44.5% | 第3位 |
| d. 専門科目 | 35.0% | 第4位 |
| i. 専門分野以外に幅広く教養科目 | 32.5% | 第5位 |

- 昨年度の調査結果と同様に、正課の学修経験、およびそれを通じて身に付けたコンピテンスが卒業後の仕事で役に立っていると卒業生に認識されている。また、課外活動や人的ネットワークの構築も卒業後の仕事に有用であると卒業生が考えていることがわかった。正課の活動と正課外の活動を両立させる仕組みを作ることは、本学の教育改善と質的転換を図る上で重要であると考えられる。
- 一方、今年の調査から、「専門分野以外に幅広く教養科目」は上位5位に位置付けられていることが明らかになった。これは、専門分野以外に幅広く教養科目を通じて身につけたソフトスキルや汎用的能力が仕事において有益であるということを本学の教育取り組みに示唆していると考えられる。

- 卒業生が考える、企業が採用で重視するコンピテンスを「5.かなり重視する」と「4.かなり重視する」の割合を加算してランク付けした結果、上位5位は以下の通りとなった。

| 卒業生が考える、企業が採用で重視する能力 | 割合 | 順位 | 企業の回答の順位 |
|-----------------------------------|-------|-----|-----------|
| p. 人柄・倫理観・責任意識 | 77.7% | 第1位 | 第1位:85.3% |
| i. 環境を適応する力や自分を管理する力 | 69.8% | 第2位 | 第4位:43.4% |
| m. 自己を理解し、適切な目標を設定し、達成するまでやり抜く力 | 66.7% | 第3位 | 第2位:67.2% |
| n. 異なる価値観を尊重し、複数の言語で周囲と意思疎通・協調する力 | 57.2% | 第4位 | 第3位:58.1% |
| o. 学んだ知識を用いて、社会の問題解決に活かす力 | 52.4% | 第5位 | 第5位:43.4% |

- 他方、「1.まったく重視しなかった」の割合でコンピテンスをランク付けした結果、上位5位は以下の通りとなった。

| 企業にまったく重視されなかった能力 | 割合 | 順位 | 企業の回答の順位 |
|-------------------|-------|-----|-----------|
| f. 海外留学経験 | 52.4% | 第1位 | 第1位:52.5% |
| c. 推薦や紹介を受けること | 42.9% | 第2位 | 第4位:23.4% |
| b. 大学の評判・知名度 | 27.0% | 第3位 | 第3位:31.7% |
| m. 大学での成績 | 26.2% | 第4位 | 第8位:9.4% |
| g. 専門分野に関する知識・技術 | 26.2% | 第4位 | 第5位:25.4% |

- 以上の結果から、推薦や紹介、大学評判、及び成績といった「ハードスキル」より、人柄、環境適応力、問題解決力、異文化理解力といったソフトスキルは企業側によって採用時に重視されていると卒業生に認識されていることが分かった。また、企業側に同じ質問を行った結果、本学の卒業生の認識と一致していることが確認された。これは、本学の人材育成や教育改善において、長期的なキャリア展望及び個人成長に役に立つソフトスキルや汎用的能力の育成が重要であることを示唆している。
- 留意点1：一方、2022年度の卒業生調査結果及び、2022年度と2023年度の企業調査結果と同様に、回答した卒業生は、海外留学経験や国際能力の習得が重要であるという認識が弱いという傾向が読み取れる。これは、卒業生が従事している仕事は国際業務に関連性が低い可能性があるかと推測される。しかし、国際化が進む現代社会において、海外留学経験、国際的視野、外国語力といった能力が不可欠であることはますます認識されていくことが予測される。よって、本調査の結果から見える本学の卒業生

の国際視野の限界を踏まえ、国際社会に対応できる人材を育成するための取り組みを検討する必要性がある。

- 卒業後の仕事に対する満足度に関して、「とても満足している」「大体満足している」「ある程度満足している」と回答した割合を合算した結果、昨年度の 82.8%にほぼ変わらず、80.8%の卒業生は現在の仕事に満足していることが分かった。また、仕事以外の生活の満足度に関して、「とても満足している」「大体満足している」「ある程度満足している」と回答した割合を合算すると、84.8%の卒業生は、現在の生活に満足していることが示された。今年の調査結果から見ると、昨年度（82.8%と 85.9%）と比較しても、ほぼ変わらず本学の卒業生の多くは、仕事と生活のいずれに対しても満足度が高いことが確認される。

<第4部 学習経験の総合評価と本学に対する愛着度>

● 本学への投資価値

- ① 18歳の時点に戻り、再度高校卒業後の進路選択ができると仮定した場合、「四年制大学に行く」と考える卒業生の割合が最も多く、91.3%に達し、「進学しない」（4.0%）、「専門学校に行く」（2.4%）、「浪人（2.4%）」、そして「短期大学に行く」（0%）の順となった。
 - ② さらに、「四年制大学に行く」と回答した卒業生に、再度18歳時点に戻ることができると仮定したら、同じ大学を選択するか尋ねたところ、「ある程度選択したい」（36.5%）と回答する卒業生が最も多く、次いで「とても選択したい」（19.0%）、「あまり選択したい」（19.0%）、「選択したい」（15.1%）、「選択したくない」（10.3%）の順となった。「とても選択したい」「選択したい」を合わせると、本学を再び選択すると回答した卒業生は70%を超え、昨年度の60%から10%増加したことが分かった。
 - ③ 他方、同じ専門分野を再度選択するか尋ねたところ、「とても選択したい」（35.7%）と回答した割合が最も多く、次いで「ある程度選択したい」（27.8%）、「選択したい」（15.9%）となった。これらの肯定的な回答を合わせた割合は79.4%となり、10人中8人弱の卒業生は自分の専門選択に後悔がなく、本学が取り組んでいる専門教育に肯定的な評価をしていることがわかった。昨年度の7人の結果から見ると、同じ専門を選択したいと回答した卒業生が1人増加したことが分かった。
- 以上、これらの結果から、卒業生の評価を巡る時系列の変化から見て、本学への投資価値は年々に増加している傾向が見られる。これは、本学の教育活動は質保証及び質向上に効果があることを示すエビデンスの一つとなる。

● 本学入学への評価

本学に入学してよかったと思っているかを尋ねた結果、「とてもそう思っている」(29%)と「そう思っている」(31%)と回答した卒業生は、60%となり、10人中6人の卒業生は、本学に入学してよかったと高い評価をしていることが明らかになった。さらに、「ある程度そう思っている」(28%)の割合を加えると、88%の卒業生が本学への入学に肯定的な評価をしていることがわかった。

● 本学への愛着度

本学への愛着度については、本学への進学を他の人に推薦するか尋ねたところ、「やや推薦します」(42.9%)と回答した割合が最も多く、次いで「推薦します」(24.6%)、「あまり推薦しない」(16.7%)、「とても推薦します」(9.5%)「全く推薦しない」(6.3%)となった。推薦可能性を含む肯定的な回答を合わせた割合は77.0%となり、10人中約8人の卒業生が母校に愛着度を持ち、他人に自分の母校への進学を推薦する可能性があると推測される。

7. 調査結果

調査結果を8ページから26ページに記載したので、参照されたい。

調査結果

第I部分 回答者情報

I. 卒業年度(作图)

Q: あなたが卒業した年はいつですか。(例えば: 2023年3月) When did you graduate?
(e.g. March 2023)

卒業年度について尋ねたところ、「2023年3月卒」(25%)が最も多く、次いで「2022年3月卒」(21%)、「2021年3月卒」(18%)、「2020年3月卒」(17%)、「2019年3月卒」(14%)の順である。

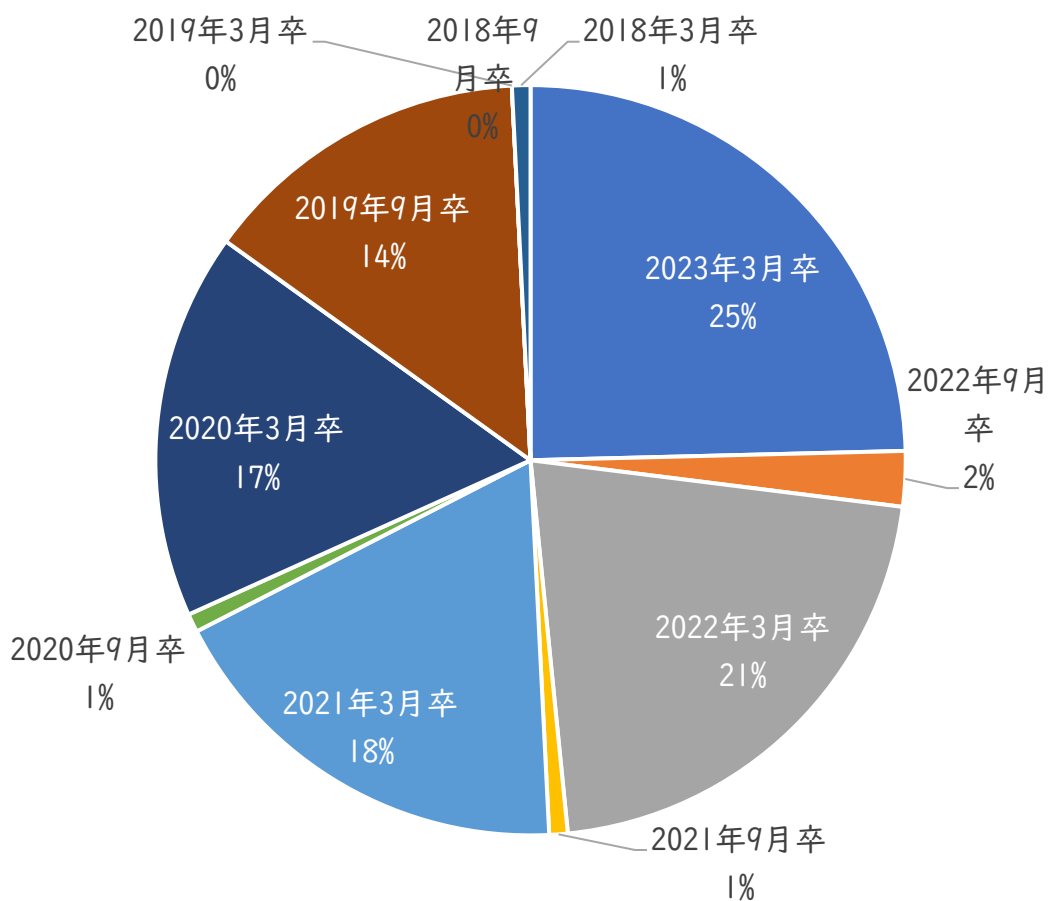


図 I-1 回答者の卒業年度

2. 卒業した学部・学科（専攻・コース）はどちらですか。Which faculty/department (program/course) did you graduate from?

学部について尋ねたところ、「法学部」42%が最も多く、次いで「経営学部」28%、「スポーツ学部」14%、「国際リベラルアーツ学部」12%、「健康栄養学部」4%の順である。

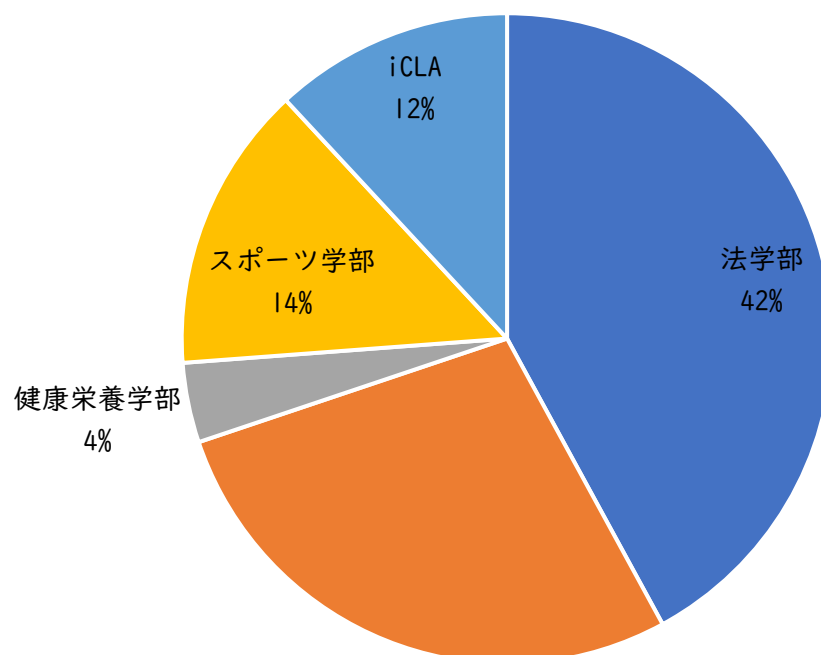


図 1-2 卒業した学部

3. 現在の居住地

Q: あなた現在の居住地について都道府県名を教えてください。(外国の場合、国の名前を記入してください) Please tell us which prefecture you currently live in. (If overseas, write the country name)

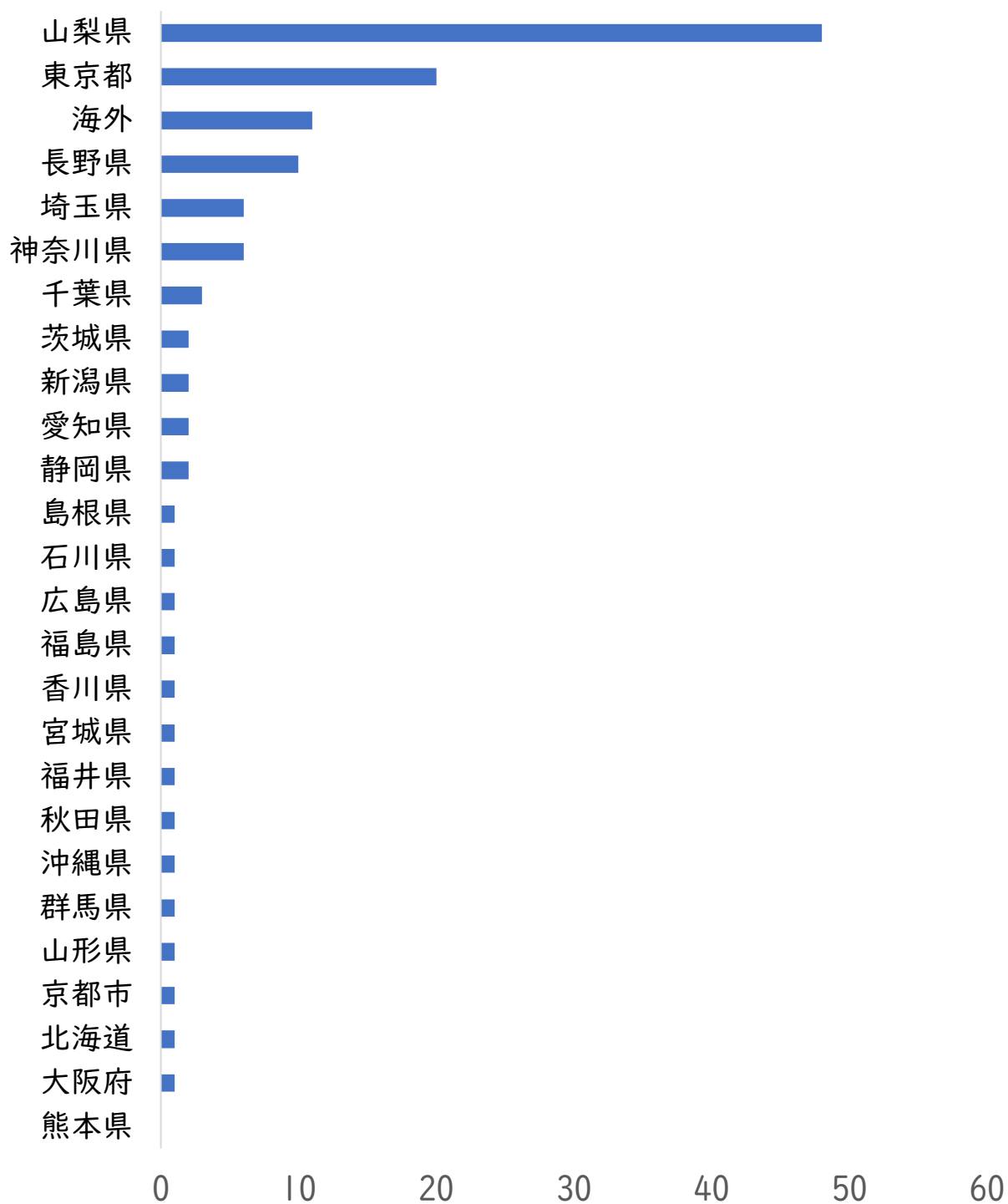


図 I-3 卒業生の分布

第2部分 大学時代の学習・生活から見た本学の教育効果

1. あなたは在学中に、次のような活動にどのぐらい熱心に取り組みましたか？ How enthusiastically did you work on the following activities while enrolled at university?

- 4. 熱心 Enthusiastically ■ 3. やや熱心 Somewhat enthusiastically ■ 2. やや不熱心 Somewhat unenthusiastically
■ 1. 不熱心 Unenthusiastically ■ 0. 体験しなかった I did not experience this

- a. 大卒の学歴 (or 修士の学歴) を得るための必要な単位を取ること Earning credits to get a...
- b. 専門分野に関する知識・技術を身につけること Gaining knowledge/ skills in my specialized field
- c. 学部の専門分野以外に幅広く教養を身につけること (ヒューマンスキル科目・キャリア支援科目) Gaining ...
- d. ICTスキルやデータサイエンスの知識を身につけること (ICTスキル科目) Gaining ICT skills and data...
- e. 外国語の能力を身につけること (言語スキル科目) Learning a foreign language
- f. 資格取得・検定試験勉強 Gaining qualifications and studying for certification...
- g. 課外活動 (部活、サークル、ボランティア) Extra-curricular activities (club activities, circl...
- h. アルバイト Part-time work
- i. 友達や人的ネットワークのづくり Creating friends and networks
- j. 企業研修やインターンシップ等 Participating in internships and company training
- k. 大学院への進学準備・勉強 Preparing and studying for post-graduate studies
- l. ゼミ Seminars
- m. 卒業論文作成 Writing my graduation thesis
- n. 留学や異文化交流 Studying abroad and intercultural exchange

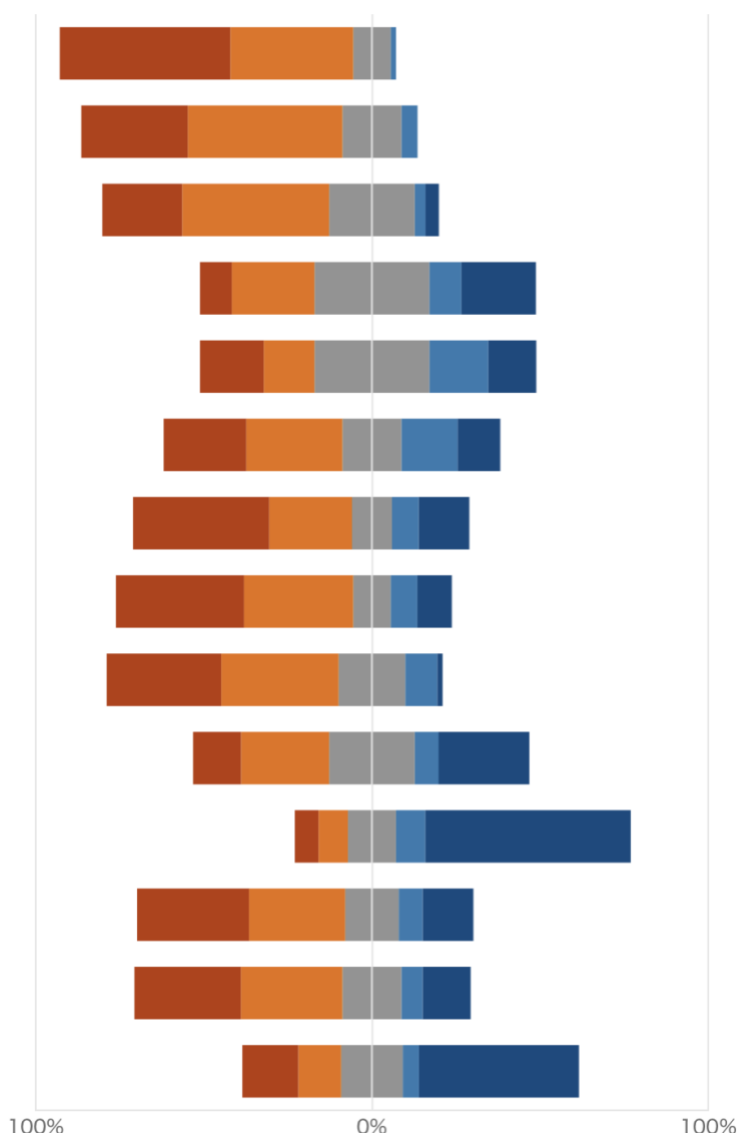


図 2-1 大学時代に取り組んだこと

2. 在学中のあなたの経験をお聞きします。Please tell us about your experience while enrolled at university.

- 5.当てはまる Agree
 ■ 4.やや当てはまる Somewhat agree
 ■ 3.どちらとも言えない I cannot say either way
■ 2.あまり当てはまらない Somewhat disagree
 ■ 1.当てはまらない Disagree

- a. 素敵な先生に出会うことができた。 I was able to meet wonderful professor(s).
- b. キャンパスの施設(図書館等)は学習環境としてよかった。 The facilities on campus (e.g....
- c. 少人数・ゼミ形式の授業で学びを深められた。 I was able to deepen my learning through...
- d. 大人数の講義形式の授業で学びを深められた。 I was able to deepen my learning through...
- e. 学習・修学支援が充実していた。 There was a lot of support for learning.
- f. 部活やサークル活動及び国際交流等の課外活動が充実していた。 There were lots of...
- g. コミュニケーションスペースが充実していた(学生会館・談話室・ラウンジ・ベンチ等)。 There...
- h. 就職・キャリアサポートが充実していた。 There was a lot of career and job hunting support.
- i. 事務室/事務センターのサービスが充実していた。 There was a lot of administrative/office...
- j. 企業研修やインターンシップが充実していた。 There was a lot of company training and...

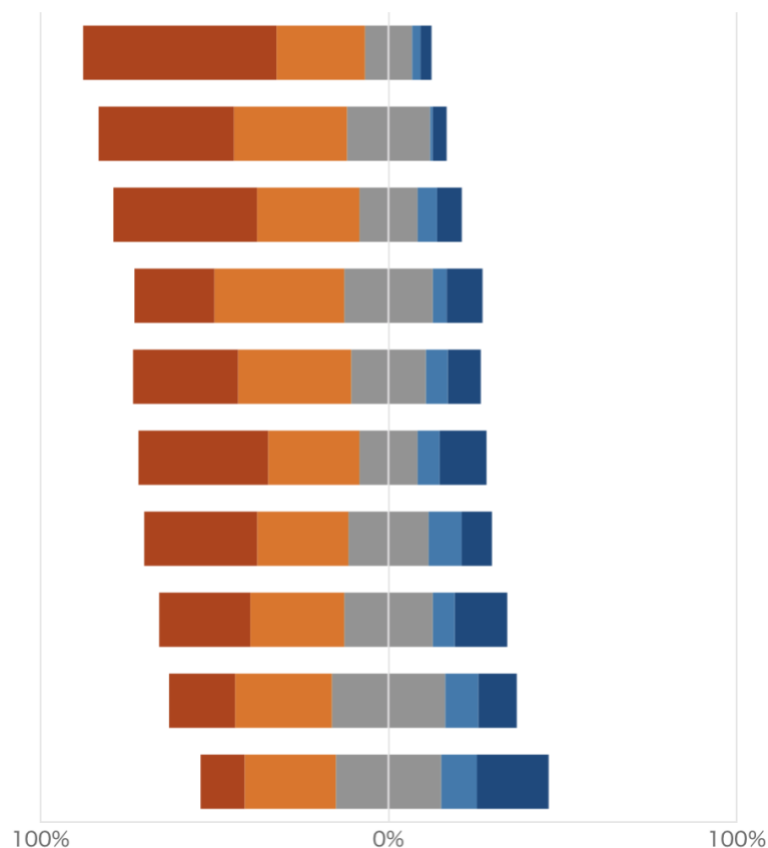


図 2-2 在学中の経験

3. 卒業の時点で、以下の知識や能力がどの程度身についていたと思いますか。To what degree had you acquired the knowledge and abilities below at the time of your graduation?

詳細

■ 5. かなり身につけた Very much
 ■ 4. ほぼ身につけた Mostly
 ■ 3. ある程度身につけた Somewhat
■ 2. あまり身につけなかった Not very much
■ 1. 身につけなかった Not at all

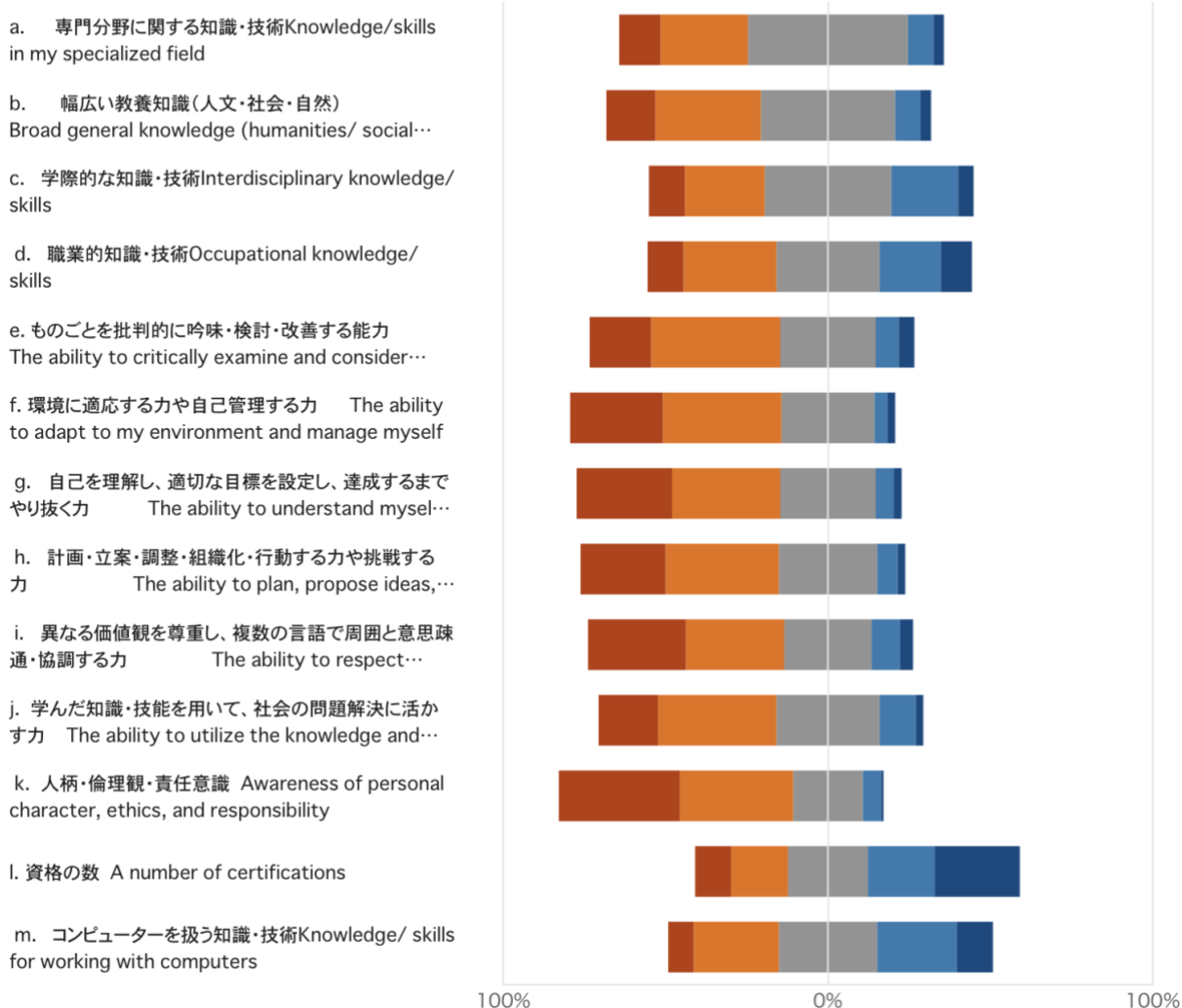


図 2-3 卒業時点身につけたコンピテンス

4. 大学教育・キャンパスライフへの総合評価あなたの大学教育・キャンパスライフ全般には、どの程度満足していましたか。How satisfied were you overall with your university education and campus life?

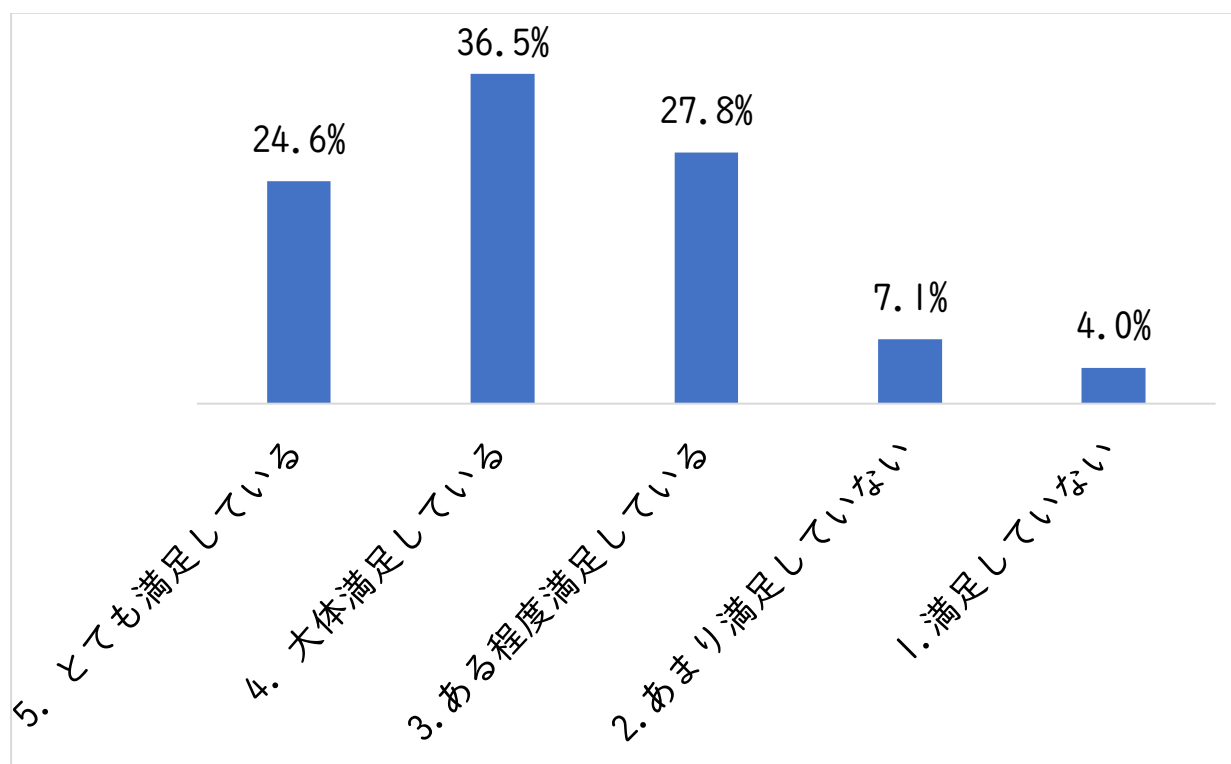


図 2-4 母校の教育・キャンパスライフの満足度

第3部分 「卒業後の就職・仕事状況」から本学の教育効果

1. 勤務先の業種

Q：勤務先の業種を選んでください Please select the industry of your place of employment

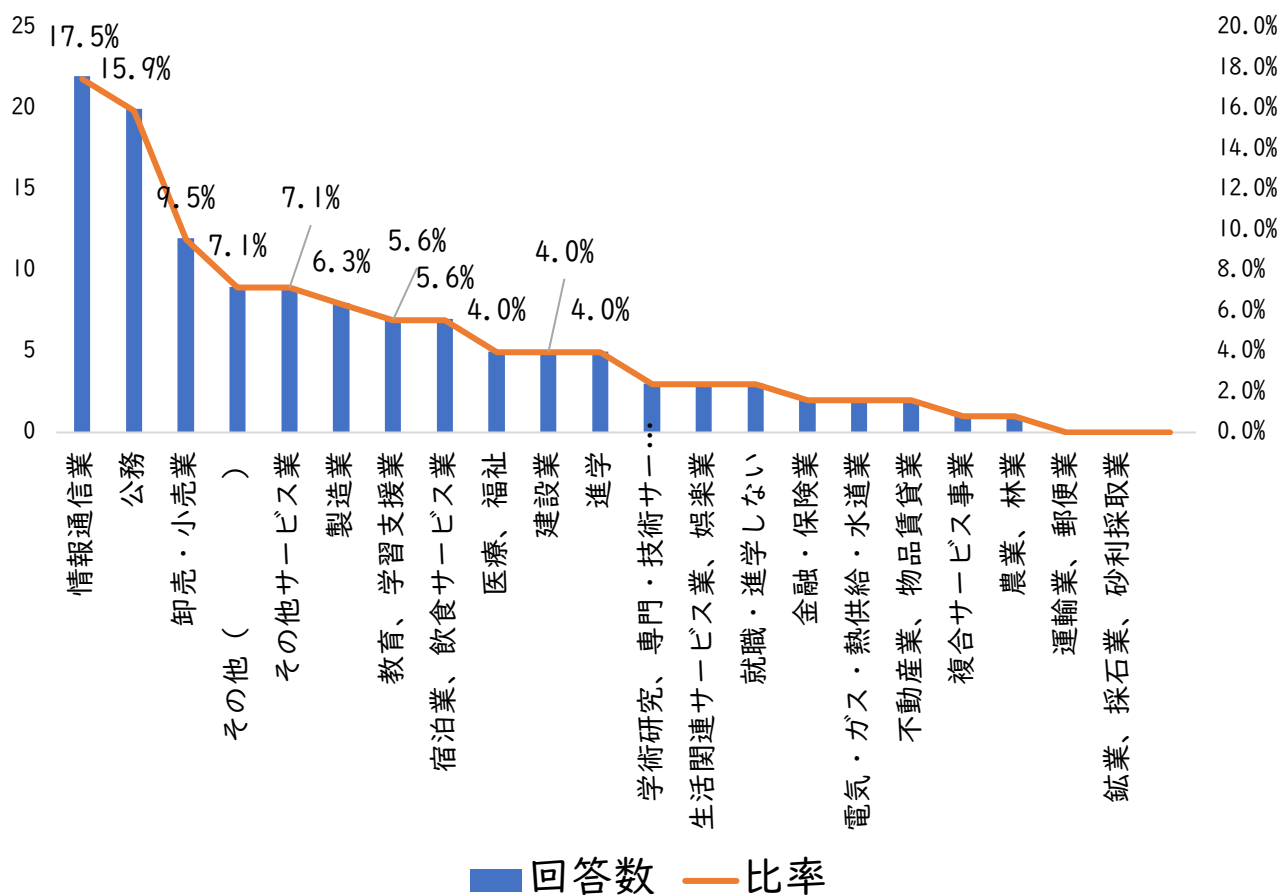


図 3-1 勤務先の業種

※上記、「その他」の内訳は以下の通りである。

| | | | |
|---|------------|---|---------|
| 1 | テレビ番組の制作会社 | 6 | サッカー選手 |
| 2 | 海運業 | 7 | ラグビー選手 |
| 3 | マーケティング | 8 | 通役者 |
| 4 | 会社運営補助 | 9 | アフィリエイト |
| 5 | 観光業 | | |

2. 就職先で担当する職種

Q：勤務先で担当している職種を選んでください Please select the type of position you hold at your place of employment

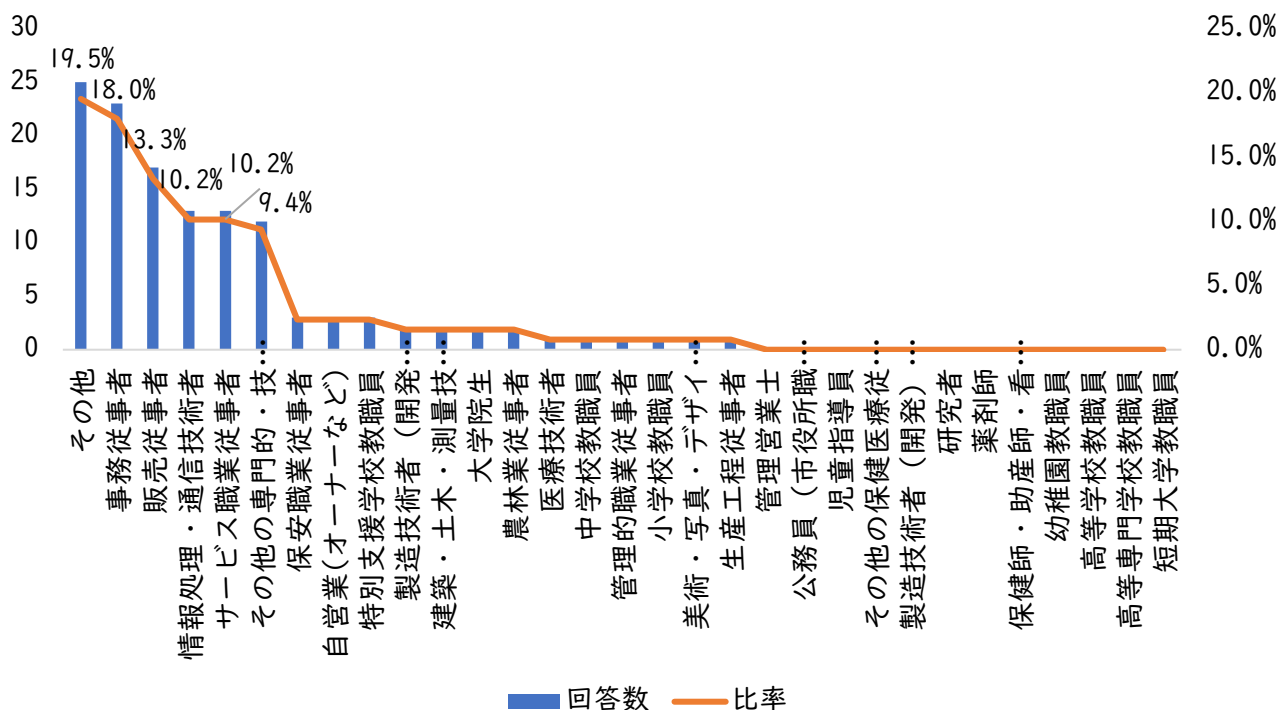


図 3-2 勤務先で担当する職種

※上記、「その他」の内訳は以下の通りである。

| | | | |
|----|--|----|-----------------|
| 1 | 塾講師 | 13 | 福井県警察 |
| 2 | バリスタ | 14 | 消防士 |
| 3 | アシスタントディレクター、翻訳者 | 15 | コピーライター |
| 4 | 営業職 | 16 | 店舗経営 |
| 5 | 公営住宅の管理事務 | 17 | インストラクター |
| 6 | 無職 | 18 | 塾講師 |
| 7 | 警察官 | 19 | 通訳者 |
| 8 | サッカー選手 | 20 | 新規顧客獲得に向けた法人営業 |
| 9 | 学生兼治療院勤務 | 21 | アフィリエイト |
| 10 | 索道整備(スキー場のリフト)や圧雪(ゲレンデ整備) | 22 | お仕事は、まだ決まっていません |
| 11 | 職業指導員 | 23 | police officer |
| 12 | Rugby Technical Advisor for Akita Prefecture | 24 | 営業 |

3. 勤務先を決める重視するもの

Q：卒業後、現在の就職先を決定するにあたって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけを選んでください。What was most important to you in ultimately deciding your place of employment after graduating? Please choose only one response.

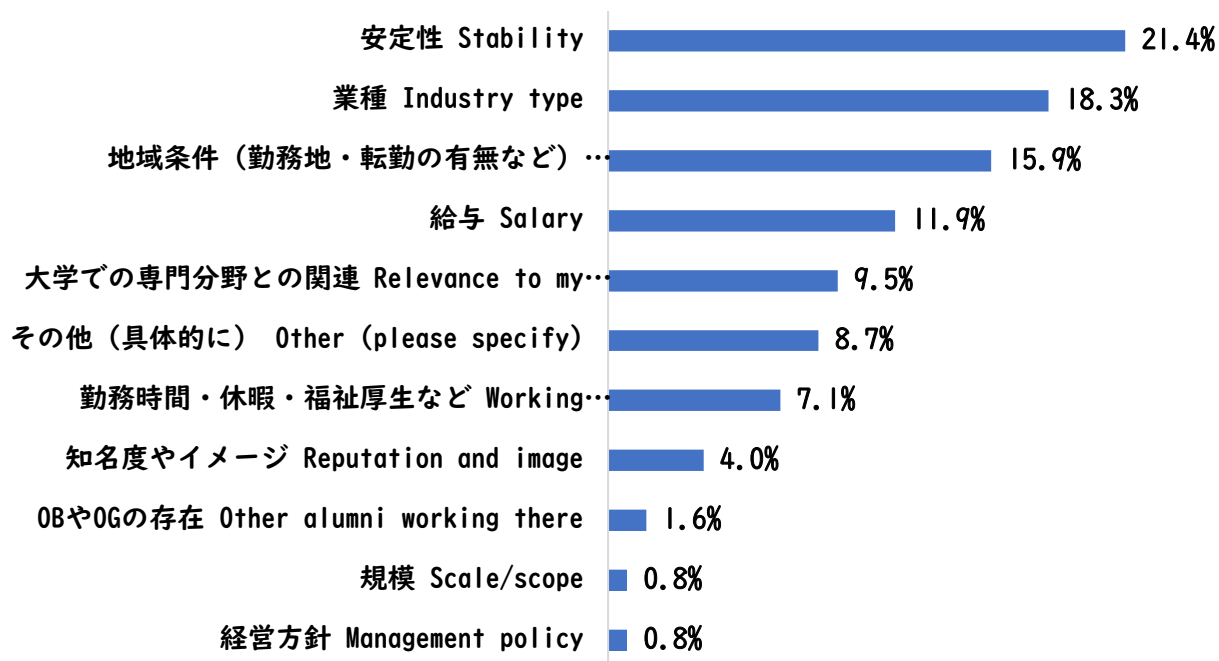


図 3-3 勤務先を決める最も重要なもの

※上記、「その他」の内訳は以下の通りである。

| 記入数 | 理由の内訳 |
|-----|--|
| 1 | 英語が使える且つ自分のやりたかった仕事 |
| 2 | 日本で、生活しているときは自分の興味との関連性 オーストラリアへ来てからは、どのくらいリラックスして働けるか職場環境 |
| 3 | 興味のある分野だったため |
| 4 | 人柄 |
| 5 | 新しいことへの挑戦 |
| 6 | 新しくスキルを身につけられる環境があるかどうか |
| 7 | その職務に挑戦してみようと思ったから。 |
| 8 | 自分自身が感じ取れるやりがい |
| 9 | Visa sponsorship |
| 10 | 社内環境や雰囲気 |
| 11 | 興味とします |
| 12 | 社内の風通しの良さ。人柄。 |

4. 転職の有無

Q：現在勤めている会社は、何社目ですか？ Is this your first or a subsequent employer since graduating?

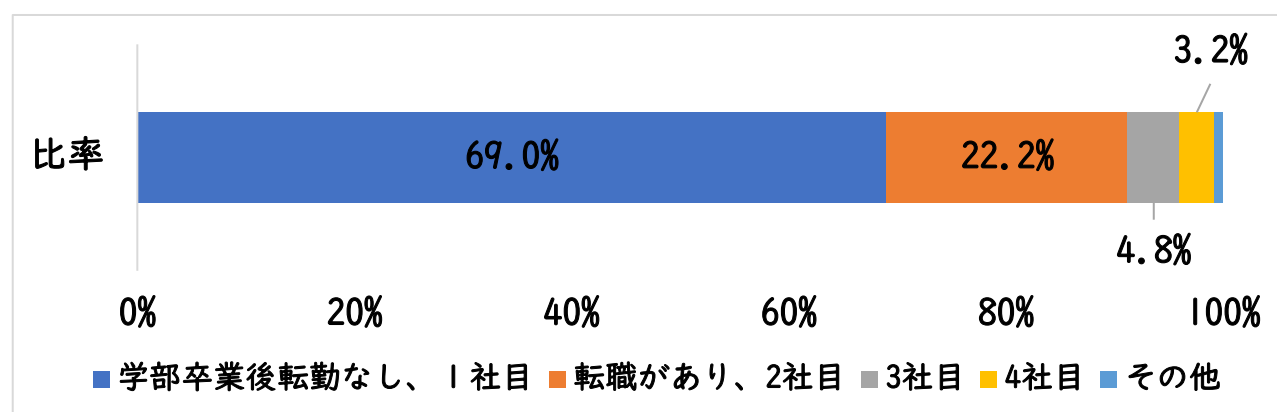


図 3-4 転職の有無

5. 1社目の勤務年数（転職ある場合）

Q：最初に就いたお仕事から転職または退職した理由はなんですか。最も大きい理由を一つだけ教えてください。 What was your reason for leaving your first job? Please select only the most important reason.

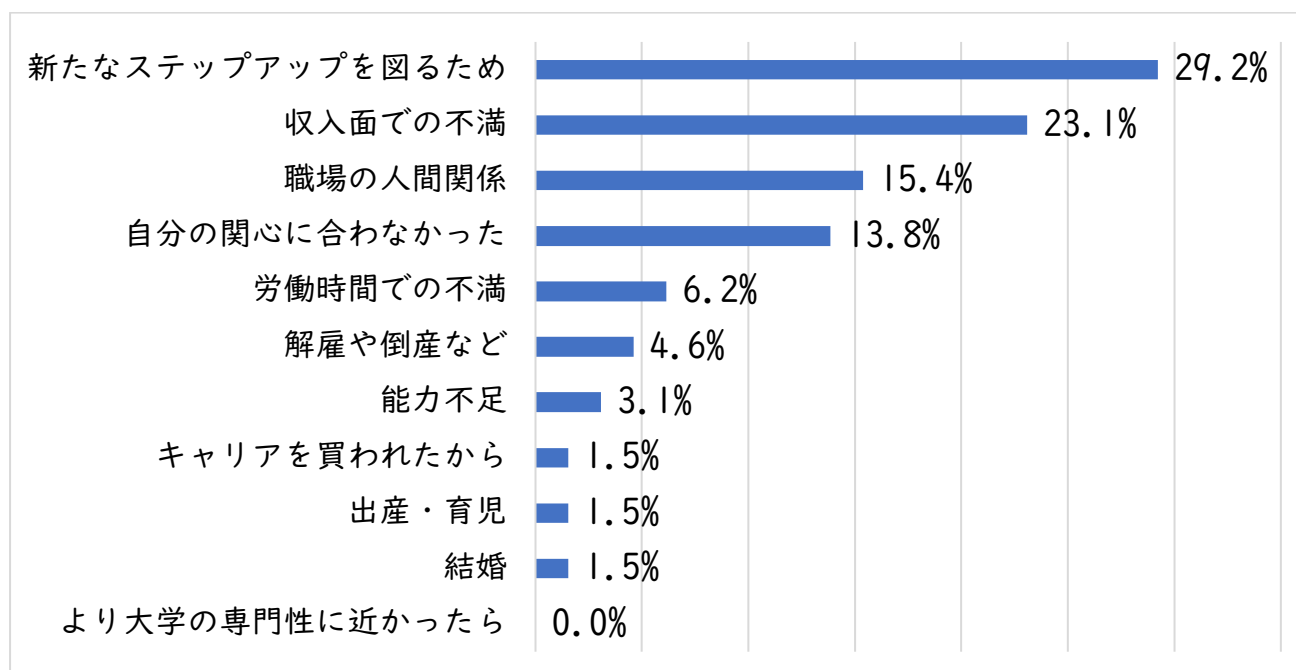


図 3-5 辞職した理由

6. 大学教育の有用性

Q、あなたが山梨学院大学で履修した科目や学修経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。For your current job, how useful have the following courses and learning experiences from Yamanashi Gakuin University been?

- 5. かなり役立っている Very useful ■ 4. ほぼ役立っている Mostly useful ■ 3. ある程度役たている Somewhat useful
- 2. あまり役立っていない Not very useful ■ 1. 役立たなかった Not useful
- 0. 受講・体験しなかった I did not take this course/ experience this

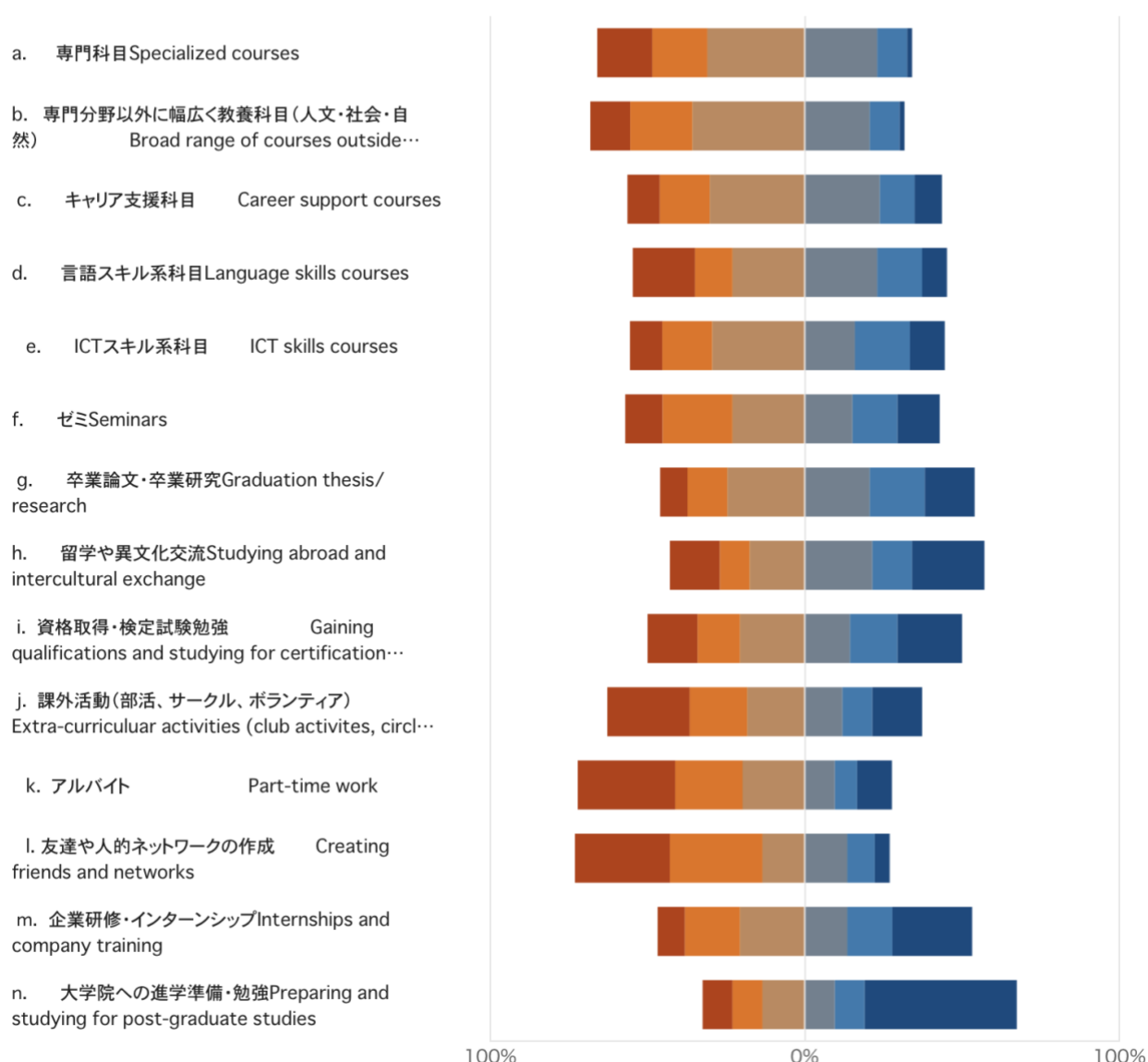


図 3-6 仕事において学修経験の効果

7. 卒業生の目線から見た企業側が重視する採用ポイント

Q: 会社があなたを採用するにあたって、次のことはどの程度重要だったと思いますか。How important do you think the following things were in your employer's decision to hire you?

■ 5.かなり重要だった Very important ■ 4.ほぼ重要だった Mostly important ■ 3.ある程度重要だった Somewhat important
 ■ 2.あまり重要でなかった Not very important ■ 1.全く重要でなかった Not important at all

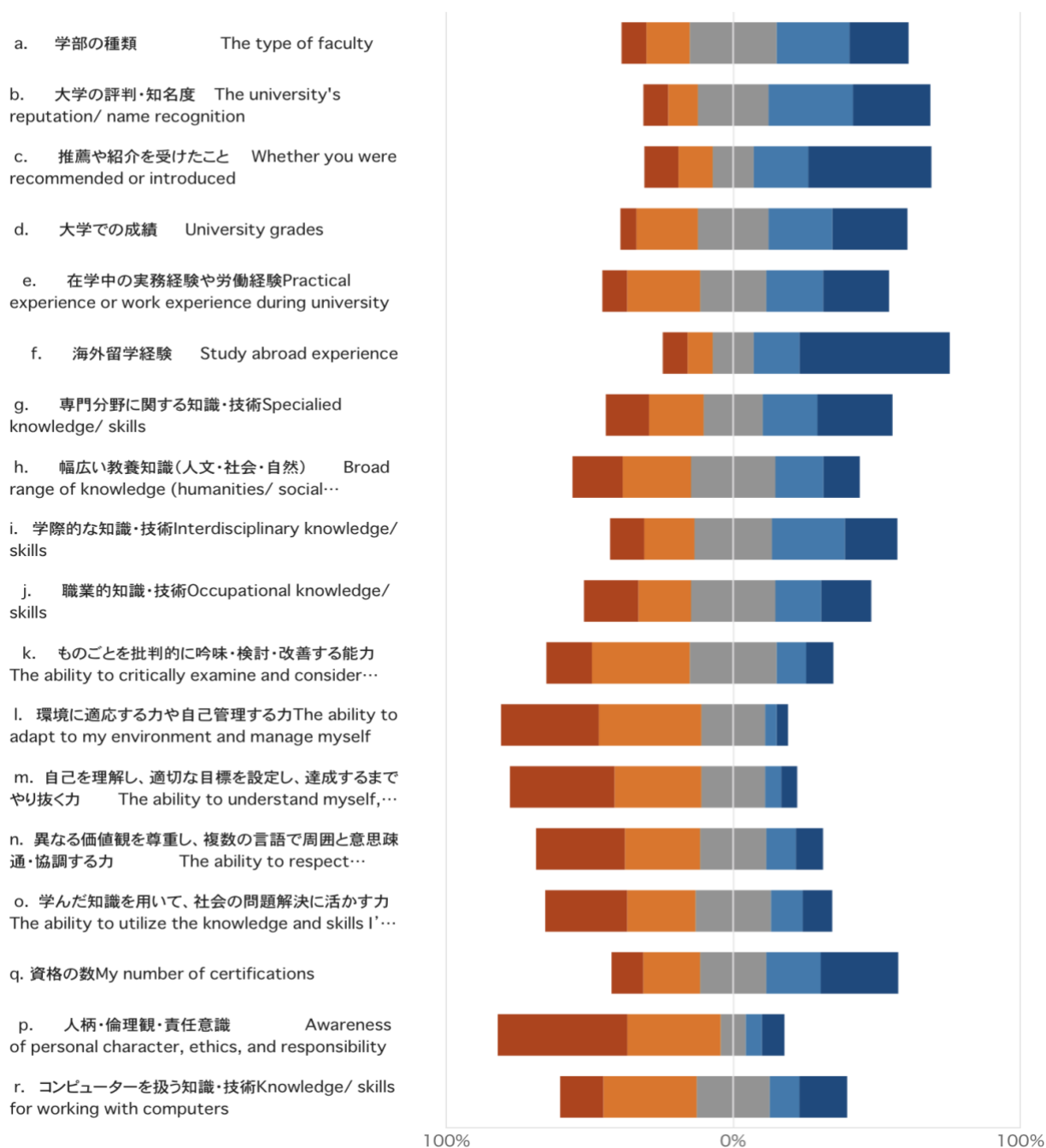


図 3-7 業生の目線から見た企業側が重視する採用ポイント

8. 卒業後の仕事満足度

Q：卒業後の生活についてお伺いします。あなたは現在の仕事についてどの程度満足していますか。Please tell us about your life after graduation. How satisfied are you with your current job?

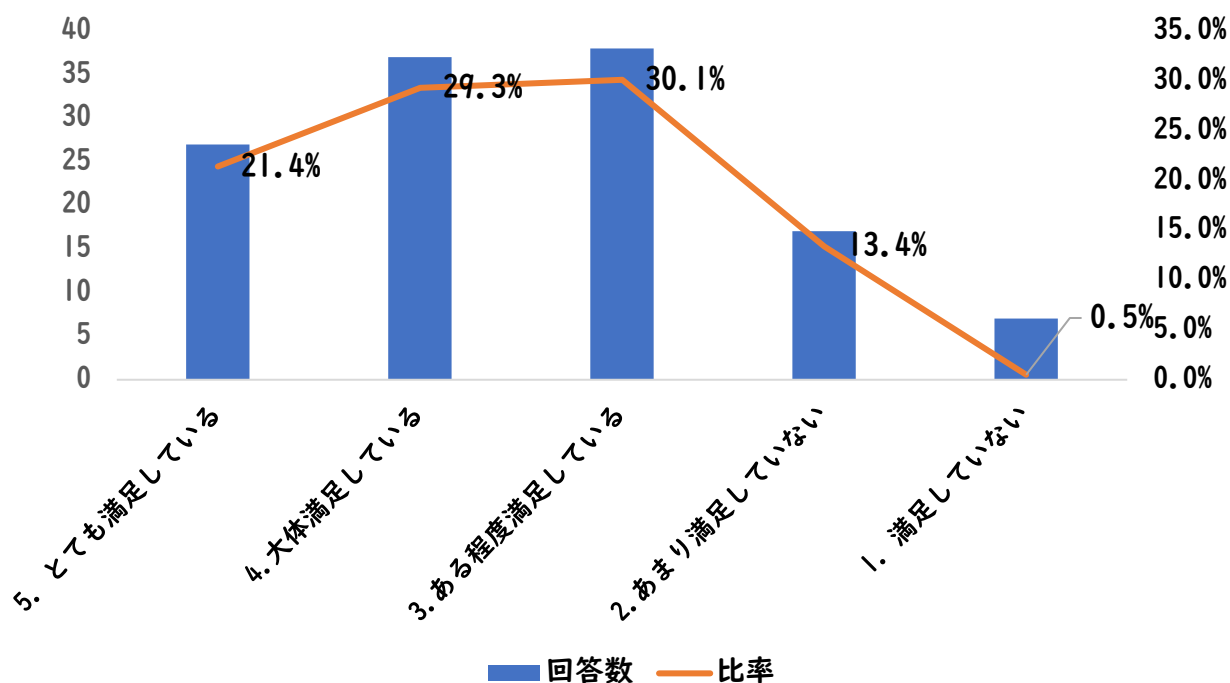


図 3-8 卒業後の仕事満足度

9. 卒業後の生活満足度

Q：いま、あなたは生活（仕事を除く）について、どの程度満足していますか。How satisfied are you with your life now (outside of work)?

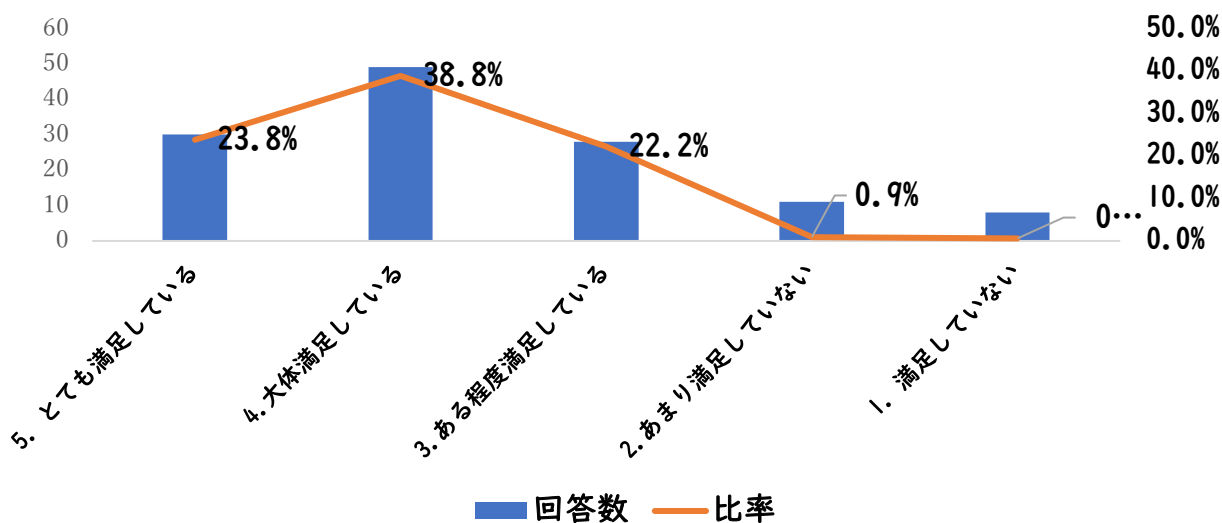


図 3-9 卒業後の生活満足

第4部分 学習経験の総合評価と本学に対する愛着度

1. 大学への投資価値

Q：いままでの大学体験及び仕事への影響から、もし高卒卒業時点に戻って、もう一度進路を選択ができるならば、あなたはどのような選択をしますか。Based on your university experience and its effect on your job so far, if you could choose your path after graduating high school over again, what would you do?

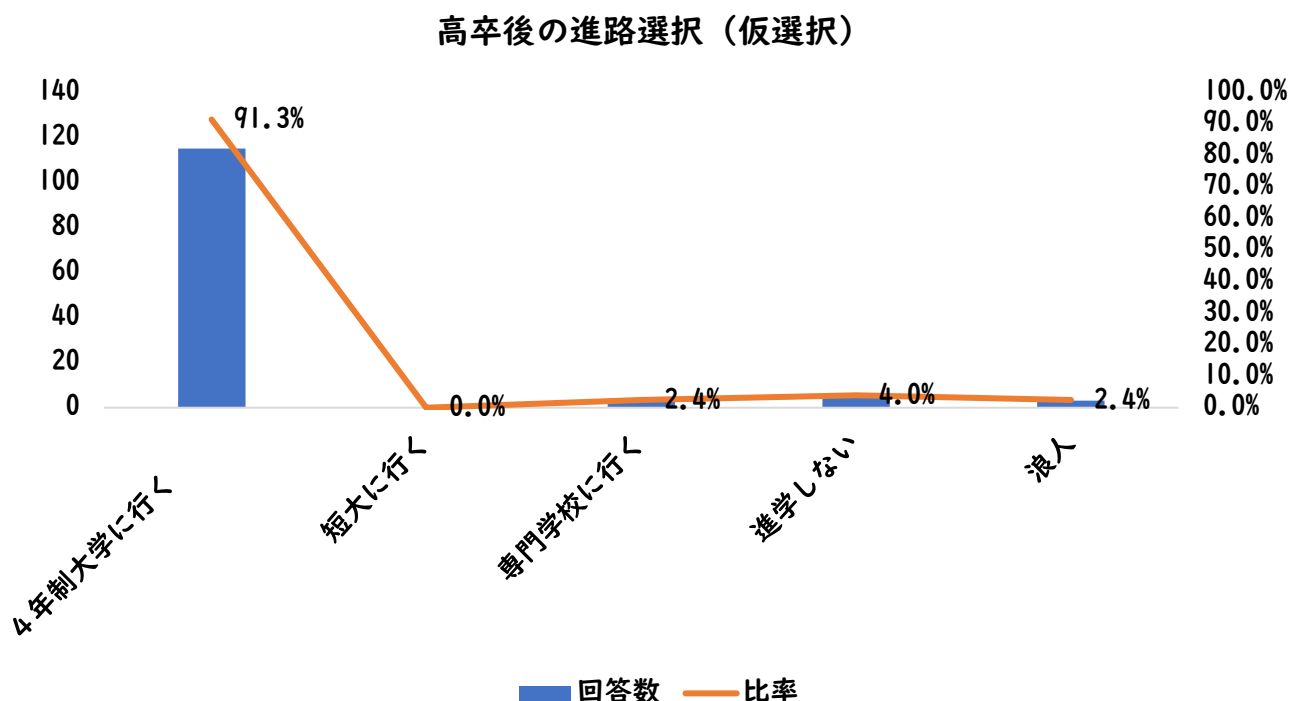


図 4-1 高卒後の進路選択（仮選択）

2. 同じ大学、同じ専門を再度選択したのか（仮選択）

Q：「4年制大学に行く」を選んだ方は、以下で当てはまる項目をお選びください。If you picked "Go to a 4-year university," please choose the most appropriate response from the following.

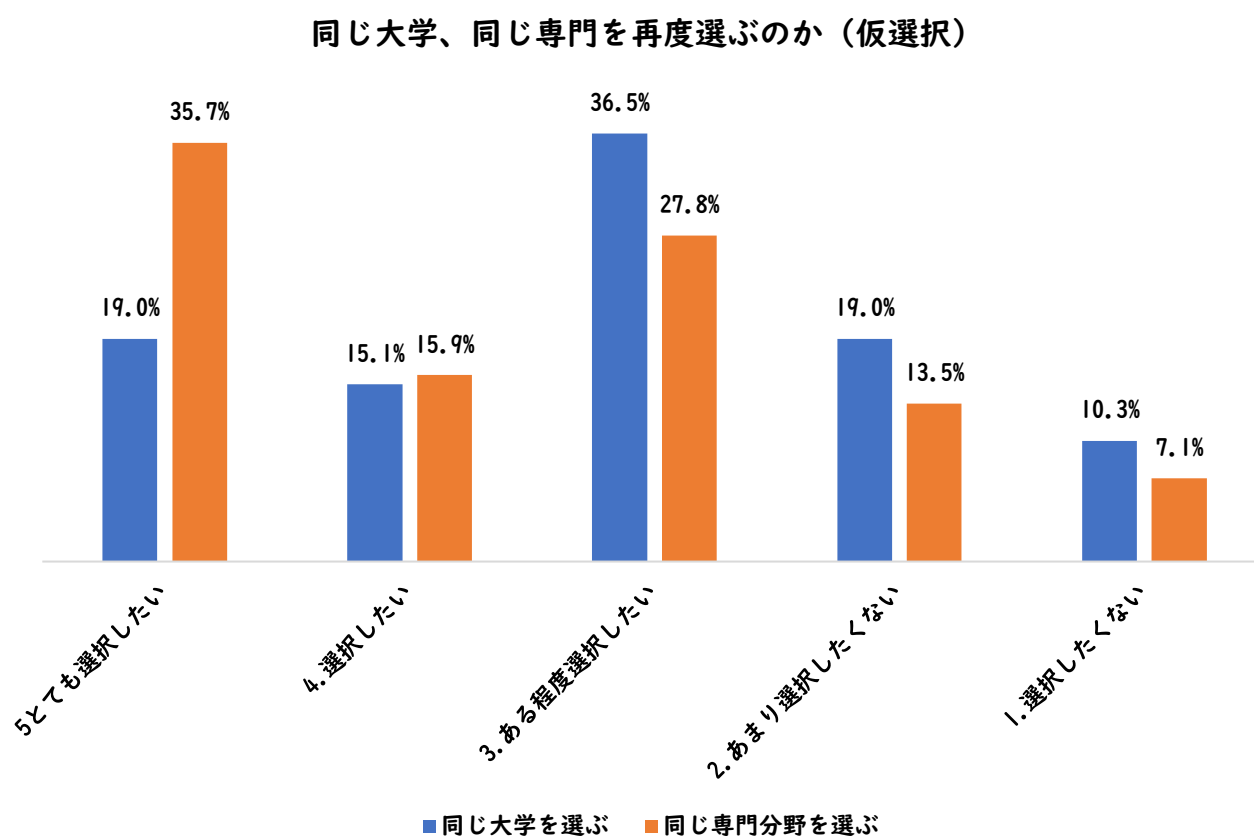


図 4-2 同じ大学、同じ専門を選択するのか（仮選択）

3. 母校への愛着度

Q：山梨学院大学の体験及び仕事への影響からみて、あなたは山梨学院大学への進学を他人に推薦しますか。Based on your university experience and its effect on your job so far, would you recommend Yamanashi Gakuin University to others?

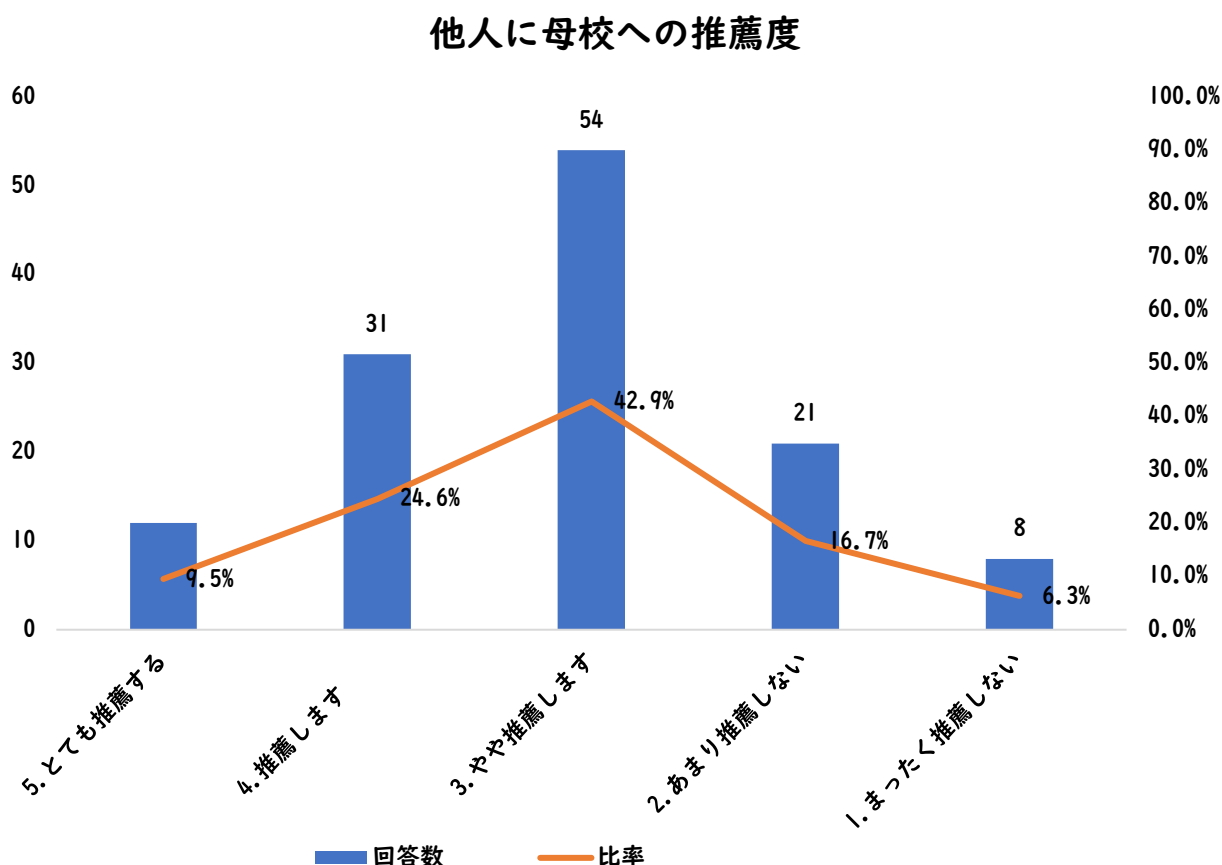


図 4-3 母校への愛着度

4. 4.1 推薦しない理由（自由記述）

Q：推薦しない場合、その理由を教えてください（自由記述）If you would not recommend it, please tell us why (open response)

| | |
|---|---|
| 1 | 学部が少ないから |
| 2 | どうしても学歴というフィルターを通してみると傷が付く。それ以外は概ね推薦する |
| 3 | 有益な人脈ができない |
| 4 | 偏差値が低い為 |
| 5 | 学生の質も教授の質も最悪です。生徒はずーっと喋っていてうるさいし、教授たちは退屈そうに一方的にしゃべっているだけ。4年間高いお金払って通ったのに無駄な時間でした。 |
| 6 | 専門分野を活かした就職をしている知り合いが少ないから。 |

| | |
|----|--|
| 7 | 違う大学でもそれぞれに合う環境があると考えているから。 |
| 8 | 高校からエスカレーター式で入学する人が多い為、どんな環境でも友達が作れる人でないと、大学生活は楽しめないのではないかと思う |
| 9 | 環境はとても良く、楽しい大学だったが、もっと少人数制のアクティブな学習があった方が良くと思うから |
| 10 | 私と同じ経験ができるとは思わないから |
| 11 | 部活動の先輩が、ゴミみみたいなこと人間性で、対人関係が最悪で、それを改善しようともしない、教育人は如何なものかと思う。 |
| 12 | 学習への意欲が高い人が少ないので切磋琢磨できる環境がない。 |
| 13 | その子が大学で何をしたいか、目標が大学とマッチしているなら否定はしませんが、特に山梨県外の人で地元に戻る子は、進路が限られてしまうと思う。県内での知名度や、進路は良いと思う。でも考え方が大人だったり、素敵な人は多かったのでそういう人は増えてほしい。 |
| 14 | I would want to recommend it but as there was hardly any career support or opportunities, I would probably be extremely honest with someone considering joining. It was an amazing experience, but I was so lost after graduating and felt like I was incredibly unprepared. The career design courses I took were absolute nonsense when it came to finding a job in Japan especially as a foreigner. |
| 15 | 山梨学院の評判が悪すぎるから。 |
| 16 | 事務の対応が酷い |
| 17 | 場所であったり、資格支援関係 |
| 18 | 担当が酷かった |
| 19 | 学内における生徒のレベルの低さ。人間的な部分においてあまりに未熟。周りから動物園と揶揄されるのも頷けるため。 |
| 20 | スポーツ推薦で入学を希望する高校生に対して、慎重に大学を選んで欲しいと感じる。合う合わないは必ずあるが、合わなかったで大切な4年間を犠牲にしてほしくないという思いがある。 |
| 21 | 主に部活動での出来事だが納得できないことが多かった |
| 22 | 意欲がなければ落ちるとこまで落ちる |

5. 卒業生からのメッセージ

この部分は学内公開のみとなっているため、省略する

令和5年度
山梨学院大学 卒業生調査

発行日付：2023年10月
発行部署：学習・教育開発センター
作成担当：潘秋静
 倉澤一孝
協力部署：就職キャリアセンター 段鉦
 iCLA LOVE